

フィリピン下見報告 in 2007

F r i e n d s I n t e r n a t i o n a l W o r k C a m p
(F I W C) 九 州



2007/8/31~9/19 in Mansaha-on,
San. Sebastian

2007年10月 発行：FIWC九州

* 目次 *

1. 表紙
2. 目次
3. 下見キャンプとは？
- 4～7. 今回の下見スケジュール
8. 前回(2007年春)のワーク状況
- 9～11. 来年度のプロジェクト1 : Mansaha-on 村
- 12～14. 来年度のプロジェクト2 : San.Sebastian 村
- 15.～16. 病気対策
17. 会計報告
18. レイテ島での生活
19. 持ち物リスト
20. FIWC の持ち物リスト
- 20～22. Evaluation
23. 現地 NGO との協力体制
24. 各種連絡先
- 25～26. キャンプ感想
- 27～29. メンバー紹介

下見キャンプとは？

<下見キャンプ>

FIWC九州のフィリピンキャンプは一年がかりのプロジェクトである。夏休みに下見キャンプを行い、その翌年の春休みに本キャンプを行っている。下見キャンプでは、翌年春の本キャンプをどこで誰とどのようなプロジェクトを行うのかというような、キャンプの土台となるものを作っていく。具体的には、実際にフィリピン・レイテ島に赴き、現地の方々とのミーティングを通して、来年の本キャンプ地やそこでのプロジェクト内容を決めていく。

また、前回のキャンプ地に赴き、前回のプロジェクト結果・現在の状況を確認して、キャンプでキャンプの振り返りも行っている。

<今回の下見キャンプ>

今回の下見キャンプは、もともと FIWC 九州のメンバー8人と現地 NGO である NorWeLeDePai とで行う予定であったが、日本出国直前に、1999年～2006年まで FIWC のキャンプをサポートしてくれていたレイテ島のエンジニアであるロクロクさんが急遽私たちの下見に参加してくれることになった。よって今回の下見キャンプは、ロクロクさんと NorWeLeDePai の 2008 年度 FIWC 担当のマイケルのサポートのもと、行った。

また、前回のキャンプ地で、村人を対象に前回のキャンプに関するアンケート(evaluation)を実施した。Evaluation の詳細は他の項目にて。

<下見キャンプの流れ>

①Net Working 作り (出国前～9月3日)

- ・ FIWC と協力体制をとっている現地 NGO の NorWeLeDePai を訪問・ミーティング。
- ・ 滞在する村がある市(Municipality)の市長さんを訪問。(表敬訪問)
- ・ エンジニアさんとコンタクトをとる。(今回の場合はロクロクさん)

②村調査(survey) (9月3日～9日)

NorWeLeDePai や市長さんなどから紹介してもらった村に赴き、村長さんと村がどんなことに困っているのか、FI はその問題に何か手助けはできないのかというような事を話し合う。その後、実際にその問題と関わる場所(今回は水道なので、井戸・水源・タンクなど)を村人と共に歩き回る。(現地語ではソロイソロイという。散歩。)この段階で、プロジェクトの概要を想定しておく。

※ この段階ではどの村でプロジェクトをするのかは決めない。村長さんにも「まだ調査中で、本決定ではない」と伝えておく。

③仮決定 (9日～11日)

村調査を行った村の中から翌年春の本キャンプ地をメンバー内で決定する。その後、決定先の村長さん・決定しなかった村の村長さんにそれぞれ通達する。決定先の村長さんには **General Assembly Meeting(G.A.)**の要請。

④**General Assembly Meeting(G.A.)**の開催 (San Sebastian: 1 2 日 Mansaha-on: 1 4 日)

G.A.とは、村全体のミーティング。ここでプロジェクトの本決定を村人全体に言う。

FIWC, NorWeLeDePai, エンジニアの全員が参加するのが望ましい。

⇒その後、エンジニアや村長たちと共に、資材・資金の見積もりを行う。

⑤信頼・情報・関係作り (G.A.以降)

G.A.の後、村人は FIWC のことを知っているなので、可能な限り村をソロイソロイ(散歩)して、来年の本キャンプに向けた関係作りを行っていく。



NorWeLeDePai とのミーティング



G.A. のようす

今回の下見スケジュール

※今回は、8月31日～9月16日まで下見を行い、16日～19日はマニラと香港へ遊びに行きました。

8月31日 (金)

福岡空港 10:55 出発。台湾、香港を経由した後、現地時刻 18:55 に C e b u に無事到着。そして毎年恒例のシランガンホテルに宿泊。事前指導が行き届いていたせいか、新メンバーがあまりカルチャーショックを感じていなかった様子。残念。

9月1日 (土)

午前四時起床。五時に予約していたタクシーに乗り込みフェリー乗り場へ。Ormoc(レイテ島第二の港町)船着場に到着後、まっすぐ Norwele(現地 NGO)の事務所へ行き荷物を置かせてもらう。そして病院の場所を確認し、朝食を食べ各自生活用品を調達に。その後1時から Norwele とのミーティング。途中から FIWC のエンジニアであるロクロクさんも参加し、下見の流れについて話し合った。夕方、ロクロクさんの車で前回のキャンプ地 Mansaha-on 村へ。夜のミーティングの後、Health Center(村の保健室)を使わせてもらって就寝。長い一日となった。

9月2日 (日)

朝からロクロクさんが Mansaha-on に来てくれ、これからの下見の具体的なスケジュールについてミーティング。昼食を作って食べた後、前回のワーク地をロクロクさんと共に視察して現状把握。その後夕食を食べ、前回のホームステイ先を訪問したり、各自自由に過ごした。

9月3日（月）

朝9時に出発し Matag-ob 市(この中に Mansaha-on 村がある)の市長の元へ表敬訪問。私たちの活動を高く評価してくれ、次のキャンプ地として同じ Matag-ob 市内の San-Sebastian 村を紹介してくれた。その後そのまま San-Sebastian へ視察に行った。水源を見るために険しい山を登った。しかし村長がいなかったため、ミーティングは後日に。夜ミーティングをして San-Sebastian でのキャンプに心が動く。

9月4日（火）

朝から Norwele 事務所に行って、本日の下見の流れについてミーティング。そして昼食を頂いた後、まずは Norwele の Learning Center 建設予定地を視察する。次に Norwele が Farming Project を行った San-Vicente を視察。そして Mansaha-on に戻り、村長とミーティング。ここで Mansaha-on の現在の水状況(他の項目で詳細を説明するが、水状況が良い方向に進んでいなかった。)を知ることとなり、夜のミーティングで熱い議論をした結果、Mansaha-on での再キャンプの方向へ話が進んだ。

9月5日（水）

ロクロクさんが休みの日だったため、私たちも休みの日にした。メンバーが入院している Ormoc の病院に行き、全員揃ってミーティング。その後は各自 Ormoc で自由に過ごし帰宅した。

9月6日（木）

朝から Mansaha-on で見つかった新しい水源を視察し、その後予算などプロジェクトの概要についてミーティングをした。昼食を食べた後、San-Sebastian に行ってバランガイ・オフィシャル(村議会議員)とのミーティング。そしてメンバー内で San-Sebastian でプロジェクトをしたいという意見も高まり悩む。このところメンバー内の健康状態がよくなかったため、この日から共同生活の場が、ナナイジーンの家が変わった。(この家族は家を二つ持っていたので、一つを FIWC のためにあけてくれた。) 食事を出してもらい、生活環境もだいぶ良くなった。感謝。

9月7日（金）

今日は予定では何もすることがなかったので、朝から木に登ったりカラバオ(水牛)に乗ったりした。そして午後からミーティングをしたものの話が進まないため、Mansaha-on の村長の家に情報収集へ。Mansaha-on、San-Sebastian で、二つプロジェクトをしないかという方向へ議論は展開していく。

9月8日(土)

Mansaha-on のバランガイ・オフィシャルのミーティングに我々も参加する。予算など話し合う。夜はナナイジーンの家みんなで行き、久しぶりに歌ったり踊ったりして楽しんだ。

9月9日(日)

朝から San-Sebastian の新たに見つかった水源を視察する。しかしどちらの水源も水量が少なかったため、元々使っていたタンクを造りなおす方向になる。(詳細は他項目。) 昼食を村長の家でご馳走になった後、ミーティングをして Mansaha-on と San-sebastian 二つのプロジェクトができるか予算を見積もり検討する。そして話し合った結果、二つプロジェクトを行う方向で決定し、San-Sebastian でプロジェクトをすることを村長に伝える。みんな喜んでくれて良かった。メンバーも一安心した様子。

9月10日(月)

今日は下見始まって以来、初めての一日まるごと休憩日。メンバーは Flag Ceremony(小学校の朝の会のようなもの)に出たり、Ormoc に遊びに行ったり、家でのんびり遊んだり思い思いに過ごした。大雨だったため、次のキャンプ地のソロイソロイ(歩いて見て回ること)ができなかったのは残念だった。

9月11日(火)

Mansaha-on の村長の家でロクロクさんと一緒に決定を伝えに行く。そして午後からバランガイ・オフィシャルを集めてもらいミーティング。プロジェクトの決定を伝え、予算について話を詰めた。

9月12日(水)

San-Sebastian で General Assembly Meeting (村の全体集会。以下 G.A.) の日。村長の家で昼食を頂いた後、ソロイソロイをして村人を呼ぶ。そして G.A.。たくさん集まってくれて、盛り上がり我々のことも理解してくれたように思う。良かった。

9月13日(木)

朝は自由時間。San-Sebastian をソロイソロイするなど、各自自由に過ごした。午後からは、Mansaha-on 各地に分散して Evaluation(前回のキャンプに対するアンケート)を配布しその場で書いてもらう。翌日の G.A.の呼びかけも兼ねて行った。夜は前回のメンバーは前回のホームステイ宅に泊まりに行った。

9月14日(金)

朝から高校の Festival に行き格闘技を見る。そして昼食後、Mansaha-on をソロイソロイして G.A.のお知らせ。そしてフィリピンタイムで G.A.始まる。終わった後は、豪華な夕食をご馳走

になってメンバー一同感激。夜は再び Festival に行ってミスコン、ダンスなどの出し物を見る。大爆笑。そしてディスコ。楽しかった！！

9月15日（土）

Norwele に最後のあいさつと貴重品を取りに行った。そしてF I 関東出身の人たちが Mansaha-on へ遊びに来た。夜はナナイジーンの家みんなで行き歌ったりダンスしたりしながら、別れを惜しんだ。

そして荷物をまとめて部屋を片付ける。

9月16日（日） マニラへ

朝5時起き。最後の片付け。別れを惜しみつつ Mansaha-on を発つ。Super cat に乗り Cebu 島に行き 15:15 発の飛行機に乗る。16:45 マニラ到着後、キム(メンバーの友達のフィリピン人)に迎えに来てもらい夜はディナーと show に招待される。前日までの生活とのあまりのギャップにメンバー興奮。

9月17日（月） マニラ

コレヒドール島組みとマニラ観光組みとに分かれ各自思い思いに過ごす。4時に合流し、アジア最大のショッピングモールに行く。夜は中華料理店に招待してもらう。あり得ない料理に感激。そして彼らの優しさに感謝。

9月18日（火） 香港

7時にキムの家を出発して 11:05 発の飛行機に乗る。13:10 香港に到着し、ホテルに向かう。夜は各自買い物したり、夜景を見たり香港の街を満喫した様子。

9月19日（水） 帰国

14:55 発の飛行機に乗り込み、20:45 に福岡到着。無事到着して本当に良かった！！

前回(2007年春)のワーク状況

キャンプ地：マタグオブ市マンサハオン村

期間：2007年 3月7日～21日

村の構造：3つの地域に分かれている。村の中心地であるバランガイプロパー、そしてシティオと呼ばれる2地域、ギンカシンガン、マロノッドである。

内容：パイプを通すための溝掘り

パイプの交換

ギンカシンガンに新しいタンクを作る(現地人のみ)

前回のワークでは、水源から1.6kmの部分、元からあった2インチPEパイプから3インチuPVCパイプに交換し、村に届く水量を増やした。

また、それまでバランガイホールのそばにあるタンクに繋がっていたパイプを、村の中央の使われていなかったタンク(New Main Tank。山の上にある)に繋ぎ、そこからバランガイホールそばのタンク、マロノッドのタンク、新しく作ったギンカシンガンのタンクに分配するようにした。

この結果、最終日に少量ながらもNew Main Tankまで水が届いていることが確認できた。

反省点：

Mansaha-onの現在の状況の項で触れるが、我々が現地を発った後に、New Main Tankに繋がれていたパイプは元の中心部(バランガイプロパー)のタンク(Old Main Tank)に繋ぎかえられ、結果として2つのシティオ(マロノッド・ギンカシンガン)に水は届かなかった。その原因はNew Main Tankに届く水量が足りず、中心部と2つのシティオに分配することが出来なかったとのことである。

この件に関して、2つの異なる話が聞けた。

1つ目は、New Main Tankからの分配を、中心部・マロノッド・ギンカシンガンの3つのローテーションによって行うことで、常時ではなくとも各地域に水が分配されるように決定したところ、とある有力者の一家(水を得るために多額のお金を払っている)がそれを拒否したため、現在の状況に至ったというもの。

2つ目は、New Main Tankに到達する水量が乏しかったため、全体が水不足になるくらいなら中心部だけでも水不足にならないようにと思い、前述の村の有力者が水を中心部のタンクに繋ぎかえるように進言したというものである。

真相のほどはわからないが、下見と先発の段階で、New Main Tankまで到達する水量が十分であるか、そして村の中で裕福な地域と貧しい地域の間でワーク後に問題が発生する可能性を調

べておかなかったのが問題であったといえる。

来年度のプロジェクト1：Mansaha-on 村

<ワーク終了後状況>

1. 現在の水状況

前回キャンパーが村を発つ直前、ゆっくりではあるが New Main Tank に水は届いていた。しかし、村人がより早く水を手に入れることを求めたためか、水源と繋がっているパイプを、New Main Tank (以下 NMT)から Old Main Tank(以下 OMT)に繋ぎかえていた。

そのため、NMT には再び水が届かなくなり、現在空っぽの状態。結果的に見てみると、水圧が多少上がったのみで、ワークをする以前となんら状況は変化していない。

2. Evaluation (評価 アンケート)

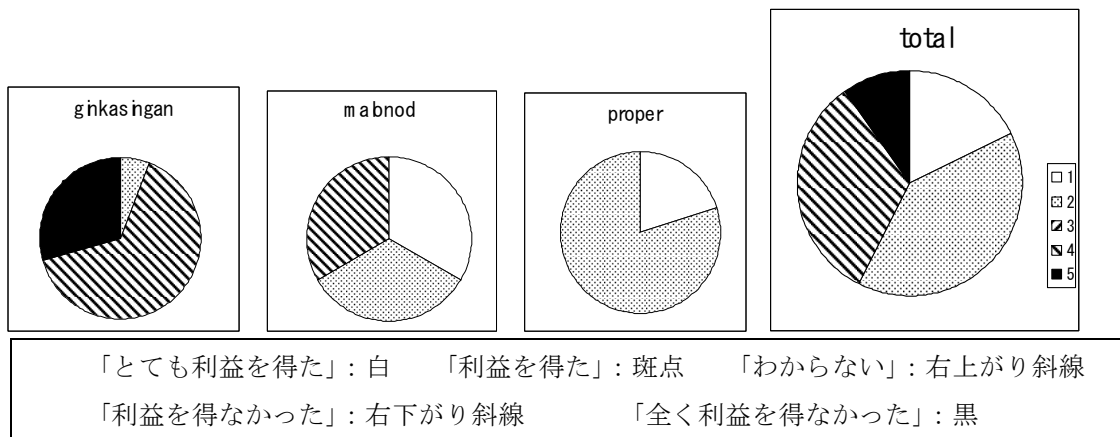
Mansaha-on の各地域の大人を対象に project に関する evaluation を行った。以下にその地域別結果と総合結果を示す。詳細は他ページで。

* Water-system (水道)に関する質問*

“Did you be benefited from the water-system project?”

「あなたは水道プロジェクトから利益を得ましたか？」

回答のグラフ



この evaluation の結果から、水が行き届いていないシティオ(ギンカシンガン、マロノッド)中心に不満があるのがわかる。

3. 改善案としての Electronic Pump

OMT と NMT を繋ぐパイプに電気ポンプを用いて、水をギンカシンガンやマロノッドにも行渡らせる案。電気ポンプ1台の費用は7,000ペソくらい。この電気ポンプを村議会の来年の予算で買うという計画を村は立てていた。

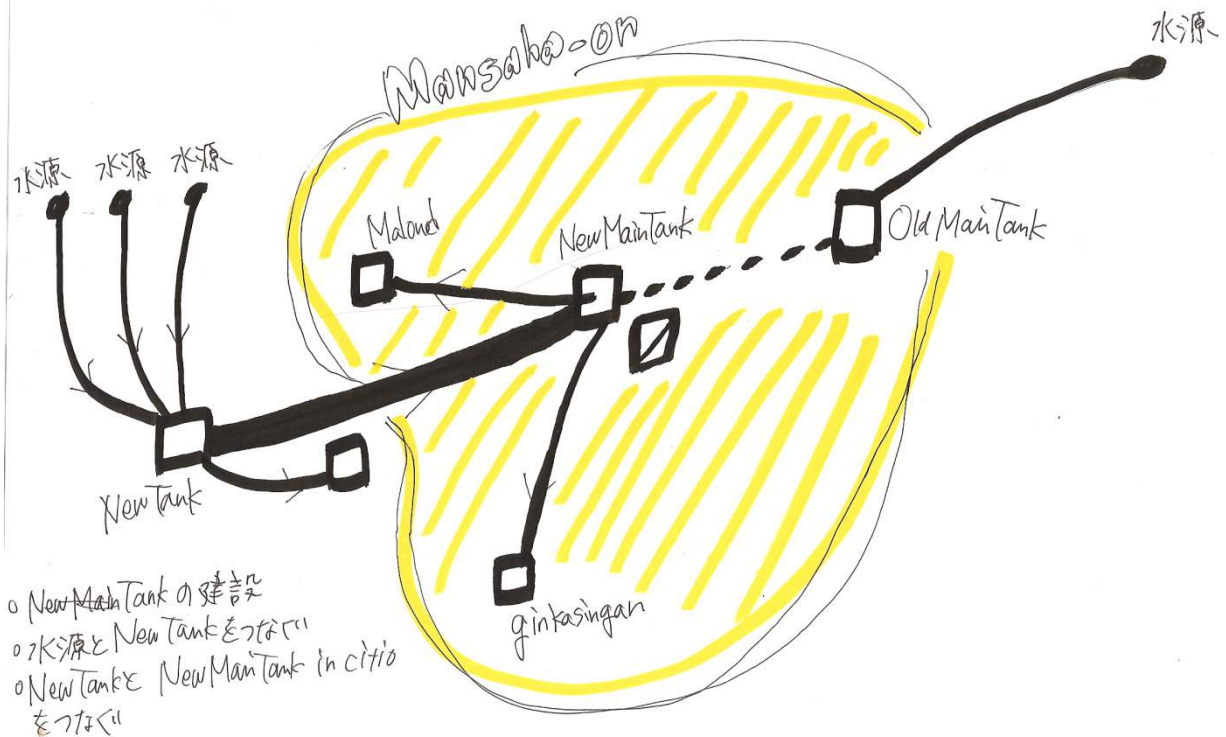
4. Electronic pump の問題点

しかし、電気ポンプ使用には多くの問題がある。

- ・電気代の問題。
- ・使用できる期間が限られている。(overheat する)
- ・電気ポンプを管理する人を作らなければならない。

以上のような Mansaha-on 村の状況から、電気ポンプを使わないでシティオ(ギンカシンガン、マロノッド)に水を行渡らせる方法を、まずは村議会・エンジニアさん・FIWC のミーティングで話しあった。そして、新たに水源が見つかったこと、そしてその水源をシティオのためだけに利用すれば、シティオまで水を行渡らせることができること、がわかった。問題なのは、それに必要な資材代のみであったため、FIWC は、村とお金を出し合いながら、再度 Mansaha-on 村で Water-System Project を行うことに決めた。

<Next Project in Mansaha-on>



ワーク概要：新たに見つかった水源の近くに New tank を建設する。各水源の水量は少ないものの、3箇所水源から集めるので十分な水は得られる。また、New tank とシティオにある Main tank を繋ぎ、シティオに水を行きわたらせる。New Main tank とシティオのタンクは去年コネクタ済み。

<資材と予算>

資材	予想金額 (ペソ)
1 inch PE pipe × 10 rolls	60,000
10 mm bar × 15	2,250
9 mm bar × 15	1,350
Cement × 15 bags	3,000
Hallow block × 100	800
Tie wire × 5 kg	200
Sand × 2 m ²	1,400
Sahara cement × 5 bags	150
Plywood × 1 pc	400
Total	69,550 (約 70,000)

内訳 20,000 ペソ (Mansaha-on 村予算)

50,000 ペソ (FIWC 九州)

資材と予算は全てエンジニア・ロクロクさんが割り出してくれた。多少のずれはあるかもしれないが、少し大目に出してくれているそうなので、多くなることは無いだろう。村人の中からリーダーを決めて (我らが PIPO さん)、ワークの詳細をすでに理解してくれているのでロクロクさんの負担も軽減されるはず。今回、mansaha-on の水状況を知ってとてもショックだったが、2 カ年 project だと思って、来春には mansaha-on の人全員が満足のいく状況にしたい。

<☆おまけ☆Mansaha-on での楽しいひと時☆>



水牛に乗らせてくれました！

あったかい家庭料理♪

来年度のプロジェクト 2 : San.Sebastian 村

<村の様子>

世帯数 170世帯

人口 821人

村人は、全体的にみて、英語を話せる人は少ないようだった。しかし初めてこの村を訪れたにも関わらず、村人はなかなかフレンドリーだった。そしてカピタン(村長)は村人から絶大な信頼を置かれていて、また村議員の人達もしっかりした方ばかりのようだった。村の組織としては、しっかり成り立っていると思われる。

この村は、現地 NGO・NorWeLeDePai の管轄地ではない。FIWC 九州にとって、NorWeLeDePai の管轄地ではない村でのプロジェクトは初めての試みである。NorWeLeDePai の管轄地ではないものの、彼らは私達のこの村でのプロジェクトを安全面や言語面等でサポートしてくれるとのこと。

<現在の水の状況>

村のシティオ・カピオンという地域のある一つの家には、飲める水がでる蛇口が一つある。その家に近い数家庭は、その蛇口まで水を汲みに行っている。

だが、常に飲める水が出るのはその蛇口一つだけである。

村の各地域にパイプは行き届いているようではあるが、そこから流れてくる水は、雨季になると水が濁り飲めない水になってしまう。お金に余裕のある家庭はマーケットまで水を買っているが、お金に余裕のない家庭は、その濁った飲めない水を飲んで生活しているという。濁った飲めない水を飲むせいで、下痢といった病気に頻繁にかかってしまうという問題がある。また、ほとんどの家庭が、きれいな水をマーケットで買わずに濁った水を飲んで生活しているとのこと。

<なぜこの村でワークすることにしたのか>

決断するにあたってキャンパーの間でもかなりの葛藤があった。というのは、Mansaha-on 村の項でも述べるが、前回のプロジェクトが、私たち・そして村人全体の望んでいた結果に終わらなかったという問題があったからだ。前回のプロジェクトで問題を残したまま、新しい村で新しいプロジェクトを作るというのは、FIWC 九州としては一番やりたくない・やっではない方法だというのが私達の意見だった。

しかし、San.Sebastian 村の水状況を見る限り、水に対するは Mansaha-on 村よりもはるかに高いと思われた。ここが、今回のプロジェクトを、Mansaha-on 村だけでなく San.Sebastian 村でも作ることにした最大の理由である。そして、この村の飲める水に対するニーズが非常

に高いことから、多くの村の協力者(バヤニハン)が期待でき、私たちが望む”村人と一体となって作るプロジェクト”が可能であるという要因も大きい。さらに、私たちが用意できる予算内でのワーク、そしてキャンプ期間内にプロジェクトの完結が可能だという点もある。

Mansaha-on 村・San.Sebastian 村ともに、村人のリーダーを決めた。San.Sebastian 村のリーダーは村議員の small ジョンさんである。主体的にプロジェクトに関わってくれる村のリーダーがいることで、プロジェクト中そしてプロジェクト後も、村の水環境を管理してくれることであろう。

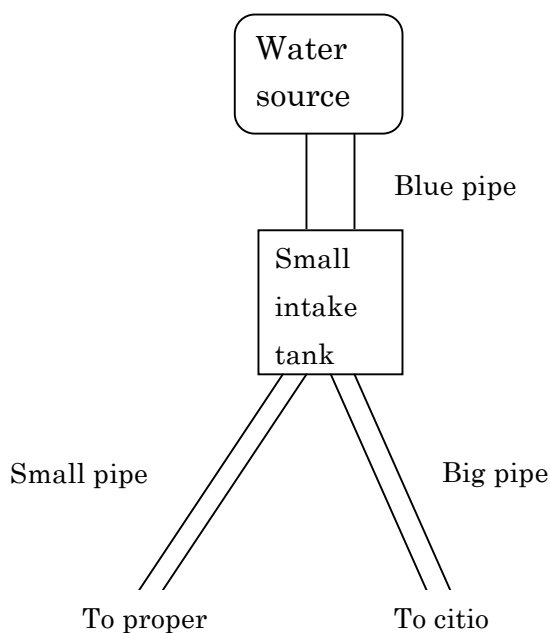
<プロジェクトの概要>

今回のプロジェクトでは現在使用している水源を使うことになった。今回下見をしたことで、雨季になると水が濁ってしまう原因が明らかとなった。雨季になると、水源にあるタンク蓋の上まで水かさ上がり、蓋の隙間から濁った水が入り込んでしまうため、濁った水が村へ行ってしまったのだ。

<ワーク内容>

- I 水源にあるタンクに濁った水が入り込まないように、今あるタンクをコンクリートで固める作業をする。
- II 村の citio と BRGY proper という二地域へ繋ぐのパイプ量を増やす。
- III 地面に剥き出しになっているパイプを地中に埋める。
- IV 一部破損しているパイプの取替え作業をする。

<Project の構造>



<資材と予算>

資材	予想金額 (ペソ)
2-rolls of 1.25 PE pipes (proper 用)	12,000 (6000 each)
6 rolls of 1.5 PE pipes (citio 用)	54,000 (9000 each)
1 roll of 1 PE pipes (破損取替え用)	6,000
20 bags cement	4,000
Sand	2,000
Total	78,000

内訳 25,000 ペソ (San.Sebastian 村予算)
 52,000 ペソ (FIWC 九州)
計 78,000 ペソ

実際にプロジェクトを行うにあたって様々な問題に直面するであろうが、プロジェクトを成功させるためにもキャンパー、エンジニア、村人のみんなが情報を共有し、スムーズに作業が行えるようにしたい。そして楽しく！をモットーに、日比の交流・親睦がどんどん深まっていけばとても良いキャンプになると思う。

<☆おまけ☆San.Sebastian での楽しいひと時☆>



♪出会ったばかりなのに愉快的な村人達♪



♪これからお世話になる村長さんと♪

病気対策

今回、FIWC 九州で初めて病院で治療を受けた者、そして入院者が出た。以下は、今回キャンパーになった病気、そして今後の対策に関するレポートである。今回の経験を次回からのキャンプに活かし、再発防止に努める。

今回なった病気、けが

- ・ウイルス性の風邪（イッシー・サリー・だいどー）※感染有※

原因：環境の変化による疲れ。

症状：高熱・咳・吐き気・だるさ・下痢・食欲不振。

対策：栄養と睡眠をとって抵抗力を上げる。

- ・傷口の化膿（スケ・カヨ）※感染無※

原因：虫に刺されたところをかきむしり、その傷口から菌が入ったと考えられる。

症状：痛い。放置していると患部が腫れる。菌が体に回ると、様々な体調不良。

対策：傷口をかきむしらない。衛生状態のよいところでしっかりと消毒。

- ・結膜炎（イッシー・だいどー・サリー）※感染有※

症状：目が痛い。目やにが出る。目が赤い。

対策：同じタオルを使わない。目をこすった手で人を触らない。人に移さないように気をつける。

- ・原因不明のウイルス（サリー）

原因：不明。

症状：高熱、体中が赤くなる。日本帰国時に発症した。日本にて一週間入院。

対策：不明。

病院でかかったお金

※ 前もって保険に入っているので、帰国後申請すれば保険が下りる。

※ 1ペソ=約 2,6 円

- ・だいどー：計 1300 ペソ（ウイルス性の風邪 往診・薬）
- ・いっしー：計 6800 ペソ（ウイルス性の風邪 入院費・治療費・薬代 6000 ペソ）
（結膜炎 治療費 300 ペソ 目薬 500 ペソ 小計 800 ペソ）
- ・スケ：計 6000 ペソ（傷口の化膿 治療費・薬代）
- ・かよ：計 1900 ペソ（傷口の化膿 治療費・薬代）
- ・サリー：計 9000 ペソ（ウイルス性の風邪 入院費・治療費・薬代）
計 10 万円（入院費・治療費・薬代）

全体的なけが・病気対策

- ・しっかり食事、睡眠をとり抵抗力を低下させない。
- ・サプリメント等で不足しがちな栄養素を補給する。
- ・虫にかまれても傷口はかきむしらない。
- ・虫さされ対策として虫除けクリーム(off)の使用の徹底。
- ・医療バックの中身を充実させる。
- ・体に異常を感じたら早めに病院やムニシパルのヘルスセンターへ行く。
- ・保険に必ず入る。
- ・入院したときの入院費用としてお金を余分に持っていくこと。
- ・出国前に流行っている病気を前もって調べる。
- ・団体保険に加入する

実際に病気になった人の体験談

「入院について」

いっしー

フィリピンに入学して4日目の朝、頭痛と寒気がしたので、村にある保健室のような部屋(Health Center)で一日休んでいたが、夜には、熱は上がって立つのさえ辛くなった。デング熱の可能性も考慮して、次の日村から一時間バスで行ける港町(Ormoc)にあるガッチャリアン病院(GATCHALIAN HOSPITAL)に診察に行った。

そこは、現地 NGO の NorWeLe も保証してくれている病院である。その評判を裏切ることなく病院の対応はしっかりとしたものだったし、掃除の行き届いた建物に、Ormoc には存在してないと思っていた水洗トイレ、フレンドリーで親切な看護師さんたち。何か体に異変が生じた際には安心して診察を受けていいだろう。ただ、正午~14時には医者が昼休みをとっているため、診察を受ける際には時間に注意すべきだ。

はじめに尿検査と血液検査を行ったところ、尿の中に細菌が見つかった。医者にデング熱の疑いがあると診断され、その場で入院が決まった。デング熱は病院に掛かればまず回復するし、病院の治療への不安はなかったため落ち着いて入院を受け入れることが出来た。ところが、3日間の入院中の診察で、結局デング熱でなく、環境の急激な変化から生じた風邪だったと診断された。入院中途切れることのない大量の点滴のお陰もあったせいも、その頃にはすっかり回復して元気に退院をすることが出来た。

今回のことで良かったと感じるのは、保険加入を徹底していた事、事前に病院の位置を確認しておいた事、そして医療バックの存在。備えあれば憂い無し。環境の変化による体への負担は、私たちが思っているより大きいもので、いざという時に慌てないためにも怠ってはならないものだ。今回の経験を踏んで、事前準備をより徹底したものにしてできるよう力を尽くしたい。

「GATCHALIAN」

サリー

私は、9月5日の朝から体がだるく吐き気があり、熱も37度あったので、その日のうちに Ormoc にある GATCHALIAN に行った。フィリピンの病院なので、最初はすごく不安になっていたが、前日からいっしーはそこに入院していたし、病院の看護師や医者は英語が堪能で、とても優しく対応してくれ、また病院自体きれいで施設も充実していたので、その不安は軽減された。

私も診察・検査の結果、いっしーと同じで尿から細菌が見つかり、熱も上がっていたので2・3日の入院が決まった。(私はデング熱の疑いはなく、普通の風邪だった。)

入院してからも、しょっちゅう熱が上がるがあったのだが、そんな時は看護師さんがすぐに解熱剤をだしてくれ、そのおかげでかなり楽になった。また私があまり食事を食べられなかった時もとても心配してくれて、「何が食べたいの?」と聞いてくれ、私が「フルーツっ!」とワガママを言ったのだが、すぐにフルーツをだしてくれたりとすごい待遇よくしてもらったように思う。本当に感謝だ。

このように GATCHALIAN はとても安心できる病院だった。次回は GATCHALIAN にお世話にならないように体調管理に気をつけたい。

「傷の化膿」

スケ

僕が自分の足の異変に気づき始めたのはレイテ島を発つ2日くらい前のことだった。どうも虫にさされたところが痛くて気になり眠れない。少し腫れをともなっていたので現地の方に見てもらったところ、なんの問題もないといわれたので安心し、少々痛みや腫れはあるもののそれを我慢していた。ところが患部は良くなるどころか、日に日に悪くなっていった。結局、痛みを感じ始めて5日ほど経ってから病院にいった。そのとき僕らはレイテ島を発ち経路のためにマニラに滞在していたので僕は ormoc ではなくマニラの病院で診察をうけた。医師には、虫にかまれたところをかきむしって傷がつき、そこから細菌がはいり、僕は適切な処置をしていなかったため菌が体中にまわっていると診断された。マニラの病院のスタッフの人たちは ormoc の病院と同様に英語が堪能でとても親切に病状を説明してくれた。

今回の僕のけがは異変に気づいたときにすぐに適切な処置を施していればこのようなことにはならなかった。自分の体に異変を感じたときには早めに病院へ行くこと。現地の人々と我々日本人では日々暮らしている環境が違うので、現地の人々の当たり前がそのまま我々の当たり前にはならない。ということを改めて学んだ。

今回の経験を生かし、再発の防止に努めたいと思う。

会計報告

<今回下見キャンプの個人負担>

- ・航空券代 7万7645円
- ・保険加入代 6640円
- ・個人自由費 (生活費含む。一人最低2万円程度必要。)

<生活費>

食費は、8人で昼食は一食100ペソ、夕食は一食120ペソを目標にし実行できました。

1人につき、4000ペソを集め、会計からまとめて（食費、移動費、ホテル代、ガソリン代、生活用品、携帯電話代、空港使用料）を支払いました。

<移動費>

- ・タクシー代 (シランガン→SuperCat 乗り場) 150 p/台
- ・SuperCat (往復) 1054 p/人
- ・Bus (Ormoc→Matag-ob) 30 p/人(student)
- ・ハバルハバル (Matag-ob→Mansaha-on) 7 p/人
- ・ハバルハバル (Matag-ob→San Sebastian) 15 p/人
- ・タクシー (SuperCat 乗り場→Cebu 空港) 500 p/全員

<ホテル代>

- ・シランガンホテル (2ベッド、エアコン付) 875 p/部屋

<空港使用料>

- ・Cebu 200 p/人
- ・Manila 750 p/人

<ガソリン代>

- ・ロクロクさんがきてくれたら400 p/回

※ 1ペソ=約2,6円

レイテ島での生活

食事…始めのうちは自炊をする予定だったが、本キャンプほどの人数もおらず、また一日の活動にはメンバー全員が参加していたため、実際に自炊できたのは4回ほど。それ以外はおかずをレストランで買ってテイクアウトしたり、パンを買ったり、ホームステイ先(といっても、空いている家を使わせてもらったという感じ)のお母さんが作ったおかずをもらったりしていた。フィリピンの料理は味的には日本人にも受け入れやすい味で、とてもおいしいものが多い。ただ、今回のキャンプでは全体的に野菜不足の感があったため、体調を崩すキャンパーが続出したことも踏まえて栄養バランスに気を使うことの必要性を感じた。

ちなみに味噌を持っていくと、自炊したときにすごくほっとする。

風呂…基本的に湯船やシャワーなんて素晴らしいものはないと思っていい。基本は井戸の側での水浴び(マリーゴ)となる。この際、服は着たままで浴びる。慣れるまでは抵抗があるかもしれないが、いったん慣れてしまった後はそれが気持ちよくて仕方ない。特に暑い真昼に行うマリーゴは最高である。

洗濯…タライと現地で売っている洗剤を使って手洗いで行うが、汚れがなかなか取れない。現地のナナイ(お母さん)達はとても手際よく、しかもちゃんと汚れも取れるように洗うのだが、きっと日本人には無理だろうと思う。できるのはせいぜい汗臭さを落とすくらいだと思う。洗濯物は洗い終わった後は井戸がある家や、宿泊している付近の柵やロープに干していた。

トイレ…和式タイプのものや、便座のない洋式タイプのものが一般的。紙は流せないで拭いた後のものはゴミにする。もしくは水を流しながら直接手で洗う。洋式タイプのものは中腰や、便器の上に和式座りをして用を足すことになる。モノがうまく流れないこともよくあるので、頑張って格闘する者が続出した。

それと、フィリピンに行くとはじめのうちは便秘になるキャンパーが多かった。

睡眠…雨季であったため、蚊が非常に多かった。そのため、蚊を媒介とする伝染病の防止の意味も含めて蚊帳と蚊取り線香と虫除けが必須である。また、乾季に比べるとそれほどでもないが、明け方は気温が落ちるため防寒着も必要となる。

持ち物リスト

荷物はなるべくコンパクトに！かついで移動するのでバックパックが便利！

現地でも調達できるので、必要最低限持っていこう！

Tシャツと長袖シャツ	4～6枚くらい。汚れてもよいもの。
短ズボンと長ズボン	3～5くらい。長ズボン必須！！
履物	靴とサンダル。現地でも買える。
タオル	紛失防止のため名前を書く！
時計+目覚まし時計	団体行動なので時間把握は絶対！
ノート+筆記用具	現地でもミーティングは行うので必須。
懐中電灯	電気がないところが多いので必須。
サブバッグ	財布やデジカメなど貴重品を入れる普段の移動用。ウエストポーチみたいなやつ。
南京錠	盗難防止用。バッグにつける。
常備薬	風邪薬、正露丸、ムヒがあるといい。
カップ	雨が降ったときに。
帽子	日差しが強いのであればと良い。
軍手	ワークに必要。
毛布	飛行機でもらう。2枚くらい。
お土産	ステイ先へのおみやげ。
顔写真	5×5を3枚。パスポート紛失時に必要。
パスポートのコピー	紛失時用。
学生証	学割がきくときがある。
日焼け止め	日差しが強い
お風呂用品	現地でも買えるが、初めの2日分持っていくと良い。
ウェットティッシュ	水がない時でも使えるので便利。

キャンプ関連書類	報告書、ビサヤ語テキスト、ミーティング資料。
リメンバランス	お別れの際村人へあげるもの。現地でも買える☆

FIWC の持ち物リスト in Mansaha-on (ノーリン宅)

日本まで持って帰られない道具は、村の友達(ノーリン。英語が堪能な 22 歳の女性)の家に来年までおいてもらうことになりました。

<料理道具>

皿：13枚 スプーン：8本 フォーク：14本 まな板：1枚 青タッパー：1つ
白タッパー(ふたなし)：1つ 包丁：1本 おたま：1本 青いかご：1つ

<生活道具>

たらい：2つ 手おけ：3つ 緑ポリバケツ：1つ シャベル：7本
ござ：4枚 蚊帳：5枚

Evaluation

2007年春の project を村人に匿名で評価してもらった。これは FIWC 九州初の試みだ。出来るだけ多くの意見をムラ無く集めるために、メンバーを ginkasingan 組、malonod 組、proper 組の3組に分け、各地域 20 人を目標に調査を行った。Evaluation は、英語が話せない人の為に NorWeLeDePai をお願いしてビサヤ語に翻訳済み。文字が読めない村人がいる可能性があるので念の為 malonod 組は英語が堪能な村人ノーリンに同行を頼んだ。

実施日 : 平成 19 年 9 月 13 日

対象 : mansaha-on 村に住む成人男性、女性 (子供は対象外)

質問項目 : 質問は 4 つ。各質問に対して A~E (又は A~C) のうち当てはまる項目にチェックしてもらう。それぞれコメント欄有り。内容は、前回キャンプでおこなった、水道プロジェクト・ホームステイ・ワークショップ(子どもを対象にしたイベント)・スポーツフェスティバルに関するものである。

結果 : 回答人数

ginkasingan	・ ・ ・ ・	17
Malonod	・ ・ ・ ・ ・	6
Proper	・ ・ ・ ・ ・	10
<hr/>		
Total	・ ・ ・ ・ ・	33



みんな真剣に書いてくれました！！

<質問と回答>

1、あなたは水道プロジェクトにより利益を得ましたか？

	ginkasingan	malonod	proper	計
A, とても利益を得た	0	2	2	4
B, 利益を得た	1	2	8	11
C, わからない	0	0	0	0
D, いいえ	11	2	0	13
E, 全く利益を得なかった	5	0	0	5
計	17	6	10	33

2、あなたはホームステイについてどう思いましたか？

	ginkasingan	malonod	proper	計
A, 一緒に過ごせて嬉しかった	16	5	10	31
B, わからない	1	1	0	2
C, 一緒に過ごして嫌だった	0	0	0	0
計	17	6	10	33

3、あなたはワークショップについてどう思いましたか？

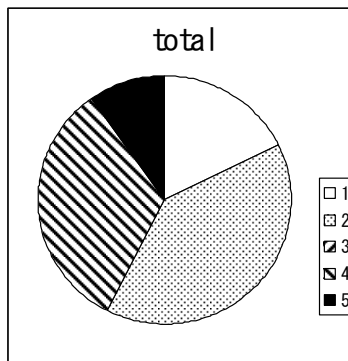
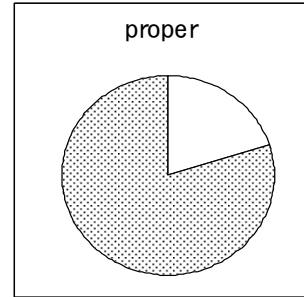
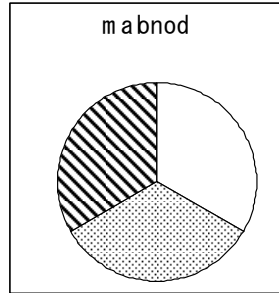
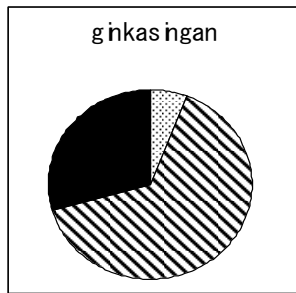
	ginkasingan	malonod	proper	計
A, とても楽しかった！	15	5	8	28
B 楽しかったが、よくない部分もあった	2	0	0	2
C わからない	0	0	2	2
D よくなかった	0	0	0	0
E これ以上しないであくれ	0	1	0	1
計	17	6	10	33

4、あなたはスポーツフェスティバルについてどう思いましたか？

	ginkasingan	malonod	proper	計
A, とても楽しかった！	17	6	9	32
B 楽しかったが、よくない部分もあった	0	0	0	0
C わからない	0	0	1	1
D よくなかった	0	0	0	0

E	これ以上しないでくれ	0	0	0	0
	計	17	6	10	33

【質問 1 に基づいたグラフ】



回答者数に citio でバラつきがあったため、回答者の満足度を割合で表した。Total は、各 citio の意見を反映させるため、項目ごとに “3つの citio の百分率の平均” を基に作成。

- 1. exactly yes
- 2. yes
- 3. don't know
- 4. not
- 5. exactly not

考察 : water-system project について、citio によってかなりの意見の差異が見られた。Old main tank の距離が近く、水が比較的容易に得られる proper では、満足度は高かった。一方、水状況はワーク前と殆ど変わっていない ginkasingan, malonod ではともに不満の声があがり、特に ginkasingan では、多少なりとも満足していると答えたのは6%にも満たなかった。ここまで顕著に結果として表れたことに、正直驚いた。

また、他の質問項目について。Homestay は殆どの方が楽しめたということで、交流をひとつの目的としている私たちにとっては、とても嬉しい結果。Sports festival, workshop は参加出来なかった人の中で少し不満があったようだ。

< Evaluation を終えて >

上にも述べたように evaluation は初めての試みだったが、そのわりには手ごたえのあるものだった。Evaluation をすることによって見えてくることがあった。是非これからも続けていき、project の質を高めるように努めたい。

また、メンバーが直接 evaluation を行ったので、少なからず圧力はかかったはずである。今回は回収率を高くすることに重点を置き、この問題は目を瞑ったが、今後この問題も含め改善していきたい。

現地 NGO との協力体制

Northwestern Leyte Development Parent's Association Inc. (NorWeLeDePai)とは、レイテ島北西部の村々で、子供たちの両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行う地域のNGO団体。世界的なNGOである World Vision のドイツ支部が資金援助をしている。



ノルウェル OFFICE 前

具体的活動内容は、

- ・ 貧困家庭の子供とドイツのスポンサーを結ぶ（スポンサーは子供が学校を卒業できるように金銭的、物質的援助をし、同時にスポンサーと子供との間で文通をしたりして文化交流を図る。）
- ・ 地域のリーダー育成（村人が開発プロジェクトを自律的に運営できるようにする。）
- ・ 子供への環境教育などのイベント
- ・ キリスト教の布教
- ・ 生活状況改善のためのプロジェクト（安定した収入源の確保、農業、学校設備、インフラ整備に関するプロジェクト）

我々 FIWC 九州委員会は、2004 年の下見から、NorWeLeDePai の紹介でキャンプ地を決めたり、資金を出し合ったりして一緒にプロジェクトを進めてきた。

今回の下見キャンプでは、evaluation や村人とのミーティングの際の翻訳（英語⇄ビサヤ語）、その他様々なアドバイス、貴重品の保管などで NorWeLeDePai にお世話になった。

NorWeLeDePai は、オフィスから少し離れた場所に Learning Center という施設を建てるプロジェクトを進めている。これは、NorWeLeDePai に関わる人たちが使える施設で、主にトレーニングや様々なことを学ぶときに使われる。資金は、World Vision や NorWeLeDePai に関わる村人たちからの寄付によって作り出している。いつもお世話になっている FIWC 九州のほう

からも少なからず資金援助をする予定である。来年あたりに Learning Center が出来上がる予定で、FIWC 九州もこの施設を自由に使えるとのこと。

各種連絡先

<エアーリンク中国通販センター> (航空券手配。団体割引とか、我々のために色々便宜を図ってくれます。)

担当 田中 義久

TEL:0833-45-2311 FAX:0833-45-2312

e-mail chugoku@airlink.co.jp

HP <http://www.airlink.co.jp>

<損保ジャパン> (ネットで申し込める海外旅行保険。出発 1 週間前には申し込むこと。)

<http://www.sompojapan-off.com/>

<Bureau of Immigration (ビザ申請先 in Tacloban)>

住所：City Engineer Compound, Justice Romualdez St. Tacloban City 6500

電話番号：053-325-6004, 053-556-9960, 0916-734-3808

オフィスアワー：月～金 8:00-12:00、13:00-17:00

ビザ申請に必要なもの：

パスポート、入国スタンプのついたページのコピー 1 部、顔写真のページのコピー 1 部、2020 ペン

* 朝 7 時半くらいに Ormoc 発のバスで行くのがよい。2～3 時間で着く。バスターミナルから、トライシクルで上記の住所へ行く。

<CEBU IMMIGRATION FIELD OFFICE> (ビザ申請 in Cebu)

住所：P. Burgos St., Tribunal Mandaue City

電話：032-345-6442 to 4 o Fax: 032-345-6441

Airport: 032-340-1473 or 340-0751

<Northwestern Leyte Development Parents Association Inc.>

住所：281 Mabini Street, Ormoc City, Leyte

電話番号：053-561-1474 (NorWeLeDePai)

053-561-1454 (World Vision)

代表者：Miss. Meldred (NorWeLeDePai), mcm_matol@yahoo.com Tel: 091-6505-3584

* 下見やキャンプの日程が決まったらできるだけ早く、出発前までに必ず上記の電話番号とメールアドレスの両方に連絡する。

2008 年度 FIWC 九州担当者 : Mr. Michael (NorWeLeDePai) Mhikets_81@yahoo.com.ph

※Michael は、NorWeLeDePai の Matag-ob 市担当の人

< **Municipality Matag-ob 市役所** >

インフォメーション係 : Miss. Ligaya Pastor

エンジニア代表 : Miss. Medina Aldaya

電話番号 : 053-554-2074、053-554-2072(市役所に隣接する警察署)

月～金 8:00-12:00、13:00-17:00

* 代表の電話につながるので、上記の名前を言ってつないでもらう。

< **CLINICA GATCHALIAN & HOSPITAL** >

オルモックにある大きな病院。レイテ島で病気になったらここを使う。

住所 : J.T.Kangleon St. Ormoc City

電話 : 053-255-2203